

製品名: SMG7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18020**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	127kDa

抗原情報

遺伝子名	SMG7
別名	SMG7; C1orf16; EST1C; KIAA0250; Protein SMG7; EST1-like protein C; SMG-7 homolog; hSMG-7
遺伝子 ID	9887.0
SwissProt ID	Q92540
免疫原	抗血清はヒト SMG7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 521-570

背景

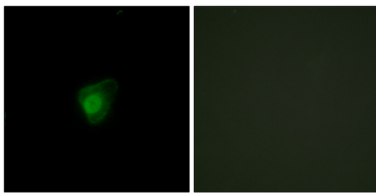
SMG7、ナンセンス変異誘発 mRNA 分解因子(SMG7) Homo sapiens この遺伝子は、ナンセンス変異誘発 mRNA 分解(NMD)に必須の

タンパク質をコードしています。NMDとは、未熟終止コドンを持つ転写産物が mRNA 分解複合体によって急速に分解されるプロセスです。mRNA 分解複合体は、このタンパク質に加えて、SMG5 および UPF1 タンパク質で構成されています。このタンパク質の N 末端ドメインは SMG5 または UPF1 との関連を媒介し、C 末端ドメインは mRNA 分解複合体と相互作用すると考えられています。したがって、このタンパク質は UPF1 のリン酸化状態の変化と NMD 候補転写産物の分解を結び付けている可能性があります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2011 年 8 月]、機能：ナンセンス変異誘発 mRNA 分解において役割を果たします。 RENT1 を細胞質 mRNA 崩壊体にリクルートする。類似性：2 つの TPR リピートを含む。細胞内局在：主に細胞質および核内に存在し、核と細胞質の間を往復する。サブユニット：SMG5、SMG7、PP2AC、UPF3A の短いアイソフォーム (アイソフォーム UPF3AS、アイソフォーム UPF3AL は含まない) 、およびリン酸化 RENT1 を含む複合体の一部。

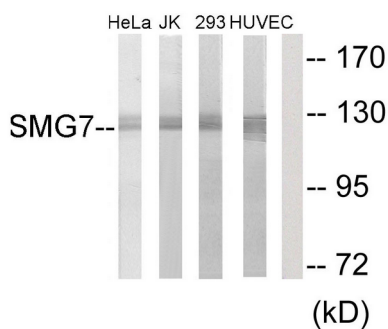
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、DNA/RNA、RNA プロセッシング

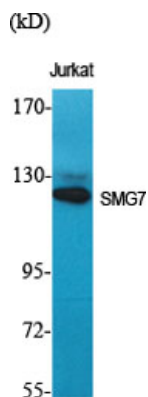
画像データ



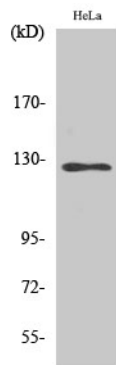
SMG7 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



SMG7 抗体を用いた HeLa 細胞、Jurkat 細胞、293 細胞、HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



SMG7 ポリクローナル抗体を 1:2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット解析した。



SMG7 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析